

サマーセミナー2014報告

伊藤 康一¹⁾, 曾我 麻佐子²⁾, 野村 安國³⁾,

1) 東北大学 2) 龍谷大学 3) 東京ウエルズ

2014 年度のサマーセミナーは、8 月 19 日～20 日の 2 日間、宮城県仙台市 作並温泉の【鷹泉閣 岩松旅館】にて開催された。若葉研究会の発表は 18 件、チュートリアルセッションでは 1 件の特別講演をお願いした。参加者数は企業 7 名、大学教員 14 名、学生 21 名の合計 42 名であった。

1. はじめに

第 23 回目となるサマーセミナーは、宮城県仙台市 作並温泉の【鷹泉閣 岩松旅館】において 8 月 19 日、20 日の 2 日間にわたり合宿形式で開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催は、2004 年以来、今回で 11 回目となる。

サマーセミナーの主目的は、学生や企業の若手研究者など若葉研究者に研究発表の場を提供すること、若葉研究者と研究指導者(企業研究者や大学教員)との交流の場を与えること、両学会の研究室学生諸君、研究者同士の交流を図ることである。

2. 開催準備と実施形態

2013 年 11 月から企画を開始し、両学会で検討を重ねた。共催となってからは両組織が交代で主担当となっており、今回はメディア工学研究会が中心となった。以下に示す企画委員会を設置し、伊藤企画委員長のもと、曾我幹事(メディア工学研究会)、野村幹事(画像応用技術専門委員会)が中心となって準備を行った。構成は以下の通りである(敬称略)。

画像応用技術専門委員会側

- ・野村 安國(東京ウエルズ, 幹事)
- ・棚澤 信(旭硝子)
- ・清水 毅(山梨大学)
- ・渋谷 久恵(日立製作所)
- ・中村 明生(東京電機大学)
- ・藤原 孝幸(北海道情報大学)

メディア工学研究会側

- ・伊藤 康一(東北大学, 委員長)
- ・曾我 麻佐子(龍谷大学, 幹事)
- ・東海 彰吾(福井大学)

サマーセミナーでは、若葉研究会での優秀な発表者に表彰が贈られる。優秀発表賞については、以下の 8 名で構成される優秀発表賞審査委員会を設置して審査を行った。例年と同様、審査委員会のメンバ全員がすべての発表を聴講することで公正かつ平等な審査を行った。

優秀発表賞審査委員会(敬称略)

代表会委員

- ・伊藤 康一(東北大学, 2014 企画委員長)
- ・梅田 和昇(中央大学, 画像応用技術専門委員会委員長)
- ・村上 和人(愛知県立大学 メディア工学研究会委員長)
- ・野村 安國(東京ウエルズ, 2014 幹事(書記))

審査委員(敬称略, 50 音順)

- ・奥平 雅士(東京都市大学)
- ・棚澤 信(旭硝子)
- ・奥水 大和(中京大学, 画像応用技術専門委員会 顧問)
- ・山本 和彦(岐阜大学 名誉教授)

3. サマーセミナー報告

3.1 参加者数と開催状況

参加者数は企業 7 名、大学教員 14 名、学生 21 名の合計 42 名(男性 39 名、女性 3 名)であった。御協力頂いた関係各位に感謝申し上げたい。会場は会議場を使用した。余裕のある発表時間だったためカリラックスした雰囲気で行進しつつも、熱心に質疑応答が行われ時間ギリギリまで盛り上がる場面も多々あった。

3.2 若葉研究会

学生発表は若葉研究会 18 件であり、発表時間・質疑応答時間に余裕を持たせたプログラムであったためか活発な議論となり、どの発表でも質問が多く積極的な情報交換が行われた。座長は、村松正吾氏(新潟大学)、東海彰吾氏(福井大学)、舟橋琢磨氏(中京大学)、曾我麻佐子氏(龍谷大学)をお願いした。

サマーセミナーでは、大学の先生方勿論、企業、学生というさまざまな立場からの質問・コメントが多く、また今回はなかなか議論が途切れず、コントロールも難しかったと思いますが、セッションを非常に円滑に進行して頂いた座長各位に感謝したい。

3.3 チュートリアルセッション

今年度は「未来を拓くビジョン技術」というテーマのもと、1 名の講師に特別講演をお願いした。2 日目の若葉研究発表後に、大町真一郎氏(東北大学)に「ビッグデータ時代の文字検出・文字認識技術 ―少数サンプルから大規模データへ―」と題して、これからのビッグデータ時代で画像処理研究がどのように変化してきたか、変化していくかについて講演して頂いた。文字認識技術をキーに進みつつある大規模データを如何に有益に利用していくか、データ環境によって起こる技術のパラダイムシフトを垣間見る事ができ、若葉諸君だけでなく大学教員・企業研究者にとっても大変貴重な講演であった。お忙しい中ご講演頂いた大町先生にはこの場を借りて心より感謝申し上げる。なお、座長は、清水毅氏(山梨大学)をお願いした。

3.4 最優秀発表賞

今回の発表は、どの発表もレベルが高く、審査員を大いに悩ませた結果、以下の2名の受賞者に賞状とカップが贈呈された(図1)。優秀発表賞のカップは持ち回りで、次回のサマーセミナーまで受賞者の研究室に飾られることになる。研究の励みになることを期待する。

優秀発表賞受賞者(発表順、敬称略)

渡邊 瞭太氏(中京大学)

丸木 大樹氏(東北大学)

なお、次点は、結城尚貴氏(新潟大学)でオーナブルメンションとして紹介された。

3.5 懇親会

入浴後、大広間【寿】にて夕食をとり、その後、レストラン・パブ【さてんど〜】にて懇親会を行った。親密な雰囲気の中、世代を超えたタテの交流、同世代のヨコの交流が行われた。参加者の手土産により潤沢な飲み物・各地名産の食べ物がそろい、最近では恒例となってきた手土産の紹介・研究室学生による指導教員紹介や若手社員による上司の紹介があり、大いに盛り上がった。その後、客室にて有志参加の2次会が行われ、例年通り、ある部屋では朝まで教員・企業人・学生の枠を超えた歓談が行われた。

4. おわりに

今年度のサマーセミナーも、和やかな雰囲気の中で無事終了した。図2は、会場玄関前にて撮影した集合写真である。



図1 優秀発表賞受賞者から喜びの声

サマーセミナー2014の準備にあたり、会場設営・運営補助にあたった東北大学の学生アルバイト各位、料金設定や会場準備その他でご配慮いただいた【鷹泉閣 岩松旅館】の皆様には心より御礼申し上げます。また、お世話になった皆様に全員に、紙面を借りて感謝の意を表したい。

次回のサマーセミナーは、画像応用技術専門委員会が中心となって開催する。野村安國企画委員長(東京ウェルズ)を中心に企画を行い、2015年夏に開催する予定である。

謝辞

最後に、アドコム・メディア油井様より寄付をいただきました。ここに感謝の意を示します。



図2 サマーセミナー2014 参加者集合写真(2014年8月20日 作並温泉 岩松旅館にて)